

パラアート (障害者アート) 国際交流活動事業

公益財団法人 日本チャリティ協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 - 1 9 アーバン四谷ビル 4 階

助成事業の概要

この展覧会は 7 回目の国際展ですが、特に今回は東京 2020 オリンピック・パラリンピックを記念して「障害者のスポーツ」とともに「障害者の文化」の重要性を「パラアート」という呼称の国際的周知とともに、障害者の幅広い活動とその作品の社会的な認識の国際的拡大を図り、併せて諸外国の障害者の文化交流を支えて芸術文化の育成に寄与することを目的に「東京都障害者総合美術展」と連動して感染症対策を徹底のうえ開催いたしました。

(開催日時)

令和 1 年 11 月 20 日 (水) ~ 24 日 (日)
10 時から 18 時まで (会期: 5 日間)

(開催場所)

東京芸術劇場ギャラリー (豊島区池袋)

(来場者数)

延べ 1,108 人

(作品展示)

268 点

(応募数 主に国内より 583 点、外国は主に団体推薦)

絵画作品

日本 123 点 児童 28 点 海外 85 点

書作品

日本 20 点 中国 5 点、韓国 5 点 児童 2 点

(参加国)

35 か国 2 地域 (香港、スコットランド) (作品リスト参照)

< 記念シンポジウムの開催 >

無観客にて開催 (バーチャルギャラリーで配信)

「日本の障がい者アートの軌道 そして、未来へ」

(開催日時) 8 月 19 日 14 時 ~ 16 時

(開催場所) 豊島区庁舎内 区議会議場

< バーチャルギャラリー > の開設

インターネットに 2020 バーチャルギャラリー <https://virtualgallery.paraart.jp/2020/> を開設し、会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載した。

事業の成果

「2020 パラアート TOKYO」第 7 回国際交流展東京 2020 オリンピック・パラリンピックの好機に「障害者のスポーツ」とともに「障害者の文化」の重要性を「パラアート」という呼称の国際的周知とともに、障害者の幅広い活動とその作品の認識の国際的拡大を図り、当協会のホームページの改良や、英語版の募集ページを作成しインターネットを通して海外への周知拡大を図り計画いたしました。

東京 2020 オリ・パラは新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み開催延期されましたが、コロナの感染拡大の自粛の中、嚴重な感染防止対策を施し「2020 パラアート TOKYO」

国際交流展と無観客での記念シンポジウムを開催することが出来ました。

展示会開催期間中は、多くの来場者の方々に障害者アート（パラアート）の魅力を堪能していただきました。

しかし残念ながら、コロナの感染拡大により来日や自粛により来場できない作者や関係者の方々にはパラアートギャラリーをWEBに開設し全作品268点と記念シンポジウムを鑑賞いただくことが出来ました。

この国際交流展の観覧を通じ、障害に対する理解を深めるとともに、障害のある方が芸術文化活動を通じて自己を表現し、社会とより広く関わりを持ち、その自立と社会参加を一層促進し、ひいては、障害の有無に関わらず、お互いを尊重しながら共生する社会の実現に繋がっていくことを改めて確認することができました。

＜バーチャルギャラリー＞の開設

インターネットに2020バーチャルギャラリー <https://virtualgallery.paraart.jp/2020/> を開設し、会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載した。

＜報告記録＞ 別添

1. 図録 1月下旬完成 500冊 出展者、後援、協力他関係者に配布
 2. シンポジウム議事録 300冊 後援、協力他関係者に配布
 3. バーチャルギャラリー実施報告書 100冊 後援、協力他関係者に配布
- 以上の事業を終了後、その成果物として、報告を兼ねた「図録」を編集、10月末に完成し、海外を含め、関係方面に配布、これからの取組や活動の機会拡大につなげることができました。

成果の広報、公表

＜「2020パラアートTOKYO」第7回国際交流展の広報等＞

- 1 日本チャリティ協会ホームページ、パラアートギャラリー新設掲載
 - ・ 全出品作品等の紹介、シンポジウムなどの広報活動
- 2 日本チャリティ協会広報誌「チャリティ・ニュース・クォーター」配付
 - ・ 国際交流展の開催概要掲載による広報活動（発行部数：1,500部）
- 3 国際交流展報告書（図録）作成
 - ・ 国際交流展図録送付による関係諸団体等への広報活動（発行部数：500部）
- 4 国際交流展のテレビ放映等
 - ・ NHK、としまテレビ放映及び新聞（公明、福祉新聞）掲載
- 5 「第35回東京都障害者総合美術展」での展示
 - ・ パラアートコーナーでの展示及び広報活動
期日：令和2年9月2日（水）～6日（日）
会場：西武池袋本店7階催事場

今後の展開

- 1 国際交流事業（「2021パラアートTOKYO(仮称)」国際交流展）の開催
2020年東京五輪開催を機会に、「2021パラアート・フェスティバル」を企画。障害者の社会参加の促進と障害者の芸術作品（パラアート）の感性、才能を世界へ発信し、芸術文化としての作品価値の認識、地位向上、自立を図り、情報を国際的に共有するコンセプトで開催いたします
会期：2021年11月予定 [5日間]
場所：としまセンタースクエア

2020 パラアート TOKYO バーチャル ギャラリー

公益財団法人 日本チャリティ協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-1-9 アーバン四谷ビル 4階

助成事業の概要

今回はコロナの影響により、展覧会場に来日、来場いただけない方々や世界に向けて、インターネットのパラアートオフィシャルページ www.paraart.jp に、「2020 パラアート TOKYO」第 7 回国際交流展の 2020 バーチャルギャラリー <https://virtualgallery.paraart.jp/2020/> を開設し、会期終了後も 37 の国・地域から選出した優れた絵画、書道作品 268 点の個性ゆたかなバラエティに富み、また、国際色も表現された全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載して障がい者アート活動の周知拡大を計った。

事業の成果

当協会のホームページの改良や、英語版を作成しインターネットを通して海外への周知拡大を図り、コロナの感染拡大により自粛の中、嚴重な感染防止対策を施し「2020 パラアート TOKYO」第 7 回国際交流展と無観客での記念シンポジウムを開催することが出来ました。

しかし、残念ながらコロナの感染拡大により来日や自粛により来場できない作者や関係者の方々にはパラアートギャラリーを WEB に開設し全作品 268 点と記念シンポジウムを鑑賞いただくことが出来ました。

作品の鑑賞やシンポジウムを WEB で配信することにより多くの方々に、障害のある方が芸術文化活動を通じて自己を表現し、社会とより広く関わ

りを持ち、障害に対する理解と作品の認識を深めるとともに、その自立と社会参加を一層促進し、ひいては、障害の有無に関わらず、お互いを尊重しながら共生する社会の実現に繋がっていくことを改めて確認することができました。

＜バーチャルギャラリー＞の開設

インターネットに 2020 バーチャルギャラリー <https://virtualgallery.paraart.jp/2020/> を開設し、会期終了後も全作品の鑑賞と記念シンポジウムの視聴ができるよう継続掲載した。

＜報告記録＞ 別添

1. 図録 1月下旬完成 500冊
出展者、後援、協力他関係者に配布
2. シンポジウム議事録 300冊
後援、協力他 関係者に配布
3. バーチャルギャラリー実施報告書
後援、協力他関係者に配布

以上の事業を終了後、その成果物として、報告を兼ねた「図録」を編集、10月末に完成し、海外を含め、関係方面に配布、これからの取組や活動の機会拡大につなげることができました。

成果の広報、公表

＜「2020 パラアート TOKYO」第 7 回国際交流展の広報等＞

- 1 日本チャリティ協会ホームページ、パラア

トギャラリー新設掲載

- ・ 全出品作品等の紹介、シンポジウムなどの広報活動
- 2 日本チャリティ協会広報誌「チャリティ・ニュース・クォーターリー」配付
 - ・ 国際交流展の開催概要掲載による広報活動 (発行部数：1, 500部)
 - 3 国際交流展報告書 (図録) 作成
 - ・ 国際交流展図録送付による関係諸団体等への広報活動 (発行部数：500部)
 - 4 国際交流展のテレビ放映等
 - ・ NHK, としまテレビ放映及び新聞 (公明、福祉新聞) 掲載

今後の展開

- 1 国際交流事業 (「2021パラアートTOKYO(仮称)」国際交流展) の開催

2020年東京五輪開催を機会に、「2021パラアート・フェスティバル」を企画。障害者の社会参加の促進と障害者の芸術作品 (パラアート) の感性、才能を世界へ発信し、芸術文化としての作品価値の認識、地位向上、自立を図り、情報を国際的に共有するコンセプトで開催いたします

会 期：2021年11月予定 [5日間]

場 所： としまセンタースクエア